

いせはら歴史 ふれあいウォーク

伊勢原市大田地区の小稲葉、上谷、下谷を訪ねて

1日 時 平成27年4月4日(土) 午前9時～午後15時00分

2コース 西屋バス停→長生寺前(受付)→長生寺→(西屋)八坂神社・庚申塔→玉川緑道→歌川→八坂神社(沖の天王様)→大山献灯設置地→渋田川(桜・芝桜)→大田ふれあいセンター(昼食)→大田橋→下谷八幡神社→中西橋→薬師堂・地藏尊→大田ふれあいセンター(解散)

大田地区(沼辺郷)

【天保12年風土記】上谷18戸 下谷48戸 小稲葉123戸

- ・明治22年に沼目、平間、谷村(上谷・下谷)小稲葉村が合し大田村に。
- ・この地域(標高は約10m)は低地で洪水や水溜りで苦しんだ処です。



長生寺

長生寺 : 臨済宗延霊山 本尊子安観音 薬師如来。寺は関東大震災で潰れ昭和3年に再建。臨済宗は栄西禅師が宋より帰朝し伝えた禅宗の一派。鎌倉幕府のころに開山、文和5年(1356年)に過去帳の初めが記述されているとの事です。



八坂神社

(西屋)

八坂神社 : 八坂神社のものは京都の八坂神社(祇園)です。祭神から、山の神、田の神、水利を守る神など、各地に相応しい生活守護神が勧請されています。



(境内の庚申塔)

庚申塔 : この庚申塔は高さが2.1mで、市内で最も大きなものです。延宝4年(1676年)の年号が表示。祭神は青面金剛像で、「見ざる」「言わざる」「聞かざる」の三猿を刻んでいます。庚申信仰は平安時代に伝わり、江戸時代に流行し講に発展し、地域の話し合いの場になっていきました。



玉川緑道記念碑

玉川緑道：玉川は大山を源流とし、厚木市七沢を経て伊勢原市の太田地区沿いに、そして、平塚市下島に流れていました。大正12年の関東大震災による土砂の流失の影響を受け、氾濫し続けたので、昭和19年に流路変更工事が行われ、新玉川として厚木市酒井で相模川に注ぐようになりました。そして、かつての玉川の流路は整備され、玉川緑道と名付けられ生活道路となり、現在に至っています。



歌川(源氏橋)

歌川：伊勢原市東富岡の丘陵地帯から平塚市大島で渋田川に合流するまでの延長6.2kmで、渋田川との合流点で笠張川も合流しています。歌川の源氏橋に水位観測所があり、河川の水位を自動で監視しています。



八坂神社(沖の天王様)

八坂神社：「八坂神社」は「沖の天王様」とも言われております。神社は歌川近くの「一ッ橋」というところに祀られていましたが、明治19年頃に現在地へ移されました。西屋の八坂神社と同様に、地域の守護神で、地域密着の神様です。



小稲葉の大山灯籠

大山灯籠設置：石尊灯籠、大山献灯と呼ばれ、江戸時代に夏の大山詣りの時期に、大山の見える道路沿いに建てられ、毎晩灯され道案内の役目を果たしました。現在でも、その風習が引き継がれ、伊勢原市の他に平塚市、秦野市、寒川町、川崎市等に残っています。伊勢原市では地元の自治会等で管理、守っています。県外では、大山講を支えてきた埼玉県や栃木県にも残っている事が確認されていますが、その性格は、道案内より道中の安全を願う灯りのようです。

渋田川：伊勢原市上粕屋渋田付の斜面を水源とし伊勢原台地沿いに東に流れ、渋田川橋付近で曲がって、南に流れ金目川合流地点までの延長14.



渋田川・芝桜

7 kmの二級河川 です。

芝桜 : 上谷地区の渋田川の河畔、約600mに広がっている芝桜は、昭和45年に奥多摩より1株を持ち帰り、土手に植えたのが始まりで、地域で育て管理し、現在は【かながわの花の名所100選】に選ばれています。



八幡神社(下谷)

八幡神社 : 明治以前は池田正八幡宮と称されていました。明治10年に八幡神社と改称。社殿は大正14年に再建。御祭神は誉田別命（ほんだわけのみこと）。

(八幡信仰) 祭神は、武家(平安時代以降)から崇敬を集めた誉田別命で、応神天皇と同一とされ、八幡大菩薩とも呼ばれる。全国に約44,000社がある。起源は福岡県飯塚市の大分八幡宮とされ、そこから分霊され、特に宇佐神宮、石清水八幡宮、筥崎宮の三社が日本三大八幡宮と言われます。



神輿

神輿 など : 祭礼は毎年4月第2土曜日（神輿宮出13:00～宮入18:30）。下谷神輿会の手造りの神輿は大きな唐様の桝組、黒い蕨手が特徴。



薬師堂

下谷薬師堂 : 渋田川沿いの昔の寺院跡地に薬師堂が残され、本尊は薬師如来像で、光背に十二神将が配されています。



六地藏ほか石造仏

六地藏菩薩 : 江戸時代文政9年（1826年）に建てられた三体ずつ2石に彫られ、市では珍しい形式です。そのほか、平成23年3月の東日本大震災で崩れてしまった「唐派風笠付庚申塔」などがあります。



下谷地蔵尊

地蔵尊：朱塗りの覆屋に地蔵尊が祀られています。上谷小稲葉等にもあるため、下谷の地蔵尊として表現し、大事にされています。

注) この資料はいせはら歴史・文化財ふれあいの会が作成しましたが、限られたスペースのため、紹介程度の内容です。足りない部分はアドバイザーが補足します。学術的な表現等については、不十分な点もあろうかと思いますが、ご容赦ください。

参考文献：「伊勢原町勢誌」「いせはら史跡と文化財のまち」「小稲葉地区大山灯籠行事調査報告書」「神社本庁資料」「ウィキペディア」、平塚土木事務所資料など



大山灯籠位置図

☆秋期のウォークは、平成27年11月頃に比々多地区で実施する予定です。広報等でお知らせしますので、是非また御参加ください。